



東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会  
「持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク」  
についての提案様式

「持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク」をご覧いただいた上で、東京 2020 大会を持続可能な大会にするためのご提案をお願いいたします。

いただいたご意見は、今後の検討に活用させていただきます。

1. ご提案内容に該当するテーマの記号を選択してください。

記号	テーマ	✓	記号	テーマ	✓
A	気候変動 (ローカーボンマネジメント)		G	計画の実現に向けたツール (持続可能性に配慮した調達 コード)	
B	資源管理				
C	水・緑・生物多様性		H	計画の実現に向けたツール (ISO20121)	
D	人権・労働・公正な事業慣行等 への配慮				
E	参加・協働、情報発信 (エンゲージメント)	✓	I	計画の実現に向けたツール (オリンピック大会影響調査)	
F	その他 ( )				

<記号 A~F を選択された方>

2. 東京 2020 大会を持続可能な大会とするために、必要と考えられる施策をご提案ください。なお、記載にあたっては、できるだけ具体的にお願いします。

- (1) なぜその施策が必要と考えますか。その施策に関連する国内外の現状、東京 2020 大会との関連及び東京 2020 大会後への影響等も含めご記載ください。

世界中の人々が、とりわけ開催国の日本の人々が東京 2020 大会を自分の大会だと感じる事ができれば、最高のイベントになるだろうと思います。そのために、より多くの人々が、より多くの役割を見つけられる大会になればよいのだろうと思います。

農業・林業・水産業・畜産業の産業界の視点としては、自分たちの育てた・採ったものが東京 2020 大会で使われることが最上の喜びであり、参加の意識を強く感じられるものです。日本産の農産物・林産物・水産物・畜産物がより多く使われることが、日本の農畜業従事者

209万人、林業従事者5万人、漁業従事者17万人およびその家族・親族・地域コミュニティの人々の東京2020大会への参加感を高めるでしょう。また、持続可能性を高める東京2020大会の調達コードが後押しする形で、農林水産業の持続可能性を高める取り組みが各地で行われ、これがレガシーとして未来へ継承されていくことはとても素晴らしいです。

日本において、持続可能性という概念は一般市民にとっても、農林水産業者にとっても、まだ馴染みのないものかもしれません。しかし数百年続く水利組合による水資源管理や、里山の保全が海の豊かさを支える等の実践事例は数多くあります。それらはエネルギー大量消費時代より以前の日本人の知恵を引き継いでいるものであり、更に数百年先までの持続可能性を維持するために、改めて認識し時代に合わせて活動を再定義しなおすべきです。

東京2020大会を通して、持続可能性の重要性を理解する良い機会にしたいと思います。そして、その視点で今後の日本のあり方をみんなで考えることができるようになれば、東京2020大会の大きなレガシーとして永く評価されるでしょう。

農林水産業は、単なるビジネスや産業にとどまらず、その存在自体が農山漁村・コミュニティ・地域・里山・里海の持続可能性と密接に関係しています。これからも永く魅力的な日本や地球が保たれるために、これらの持続可能性に寄与する活動を誰が担い、そのコストはどのようにシェアするのか国民的な議論が求められます。その大前提として、持続可能性という概念について東京2020大会を通して理解を広めることが大切です。

以上のことをふまえて、次の施策を提案します。

- (A) 東京2020大会では、新鮮な食材から作られる食を世界中の方に楽しんでもらうため、開催国で生産される持続可能な農林水畜産物を利用することを調達の方向性として位置付け
- (B) 象徴的な取り組みとして、選手村で食品を提供するスポンサー企業の店舗を可能な限りすべて開催国産で提供してみる（例：日本産ジャガイモを使用したフライドポテト、日本産の魚や小麦や米粉を使ったフィレオフィッシュバーガー、日本産木材を使用した店舗内装など）
- (C) 一般市民と農林水畜産業者の両方が参加するシンポジウム等で、持続可能性について理解を深める機会を増やす

もし選手村で食品を提供するスポンサー企業が、選手村の店舗を日本産で提供するような計画をされた場合、日本の農業・林業・水産業・畜産業の産業界をあげて、そのムーブメントを支えるでしょう。そのために、日本産推進協議会は協力を惜しみません。